

別紙

前年度の温室効果ガスの排出の量及び排出削減計画に基づき実施した措置の状況

氏名	(法人にあつては名称) 中山石灰工業株式会社		住所	(法人にあつては主たる事業所の所在地) 〒716-1403 岡山県真庭市宮地2, 252	
本票作成	部署名：生産部製造課				
主たる業種	分類コード	21	業種名：窯業・土石製品製造業		
事業の概要	生石灰、消石灰等石灰類の製造、販売				
県内の主な工場等	番号	工場等の名称		所在地	
	①	中山石灰工業株式会社 本社工場		岡山県真庭市宮地2, 252	
特定事業者の該当要件	<input checked="" type="checkbox"/> ①燃料等原油換算1,500kl以上 <input type="checkbox"/> ②バス・トラック100台、タクシー250台以上 <input checked="" type="checkbox"/> ③CO ₂ 換算3,000t以上 (●工場等の数 1 所 ●車両台数 (②該当の場合) 台)				

温室効果ガス排出量	基準年度(平成 26 年度)	(平成 30)年度排出量	目標年度(令和 元 年度)
	184,753 t CO ₂	197,465 t CO ₂	184,544 t CO ₂
主な工場等の排出量	番号	工場等の名称	(平成 30)年度排出量
	①	中山石灰工業株式会社 本社工場	197,465 t CO ₂
			t CO ₂
			t CO ₂
			t CO ₂

削減目標の達成状況	計画期間：平成 27 年度 ～ 令和 元 年度 (5 箇年度)			
	<input type="checkbox"/> 総排出量基準	(30)年度削減実績	目標削減率	目標達成
	<input checked="" type="checkbox"/> 原単位基準	7.6 %	0.2 %	<input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 未達

(原単位基準の削減目標を選択している場合に記入)	温室効果ガスの排出量と密接な関係をもつ値の内容 石灰採掘～熱分解・粉砕等製品化に至るプロセスに要する総エネルギー量(廃棄物燃料含む)を主製品(生石灰)で除した値を原単位とする。	原単位当たり排出量		
		基準年度	(30)年度	目標年度
		0.511 t CO ₂ /(tCaO)	0.472 t CO ₂ /(tCaO)	0.510 t CO ₂ /(tCaO)

(該当事業者のみ記入)

ベンチマーク指標の状況	対象事業の名称	ベンチマーク指標	関連数値(平成 30 年度)	達成率等

【削減状況の自己評価】

前年度(平成29年度)と比較すると、今年度(平成30年度)の温室効果ガス排出量は前年度を僅かに下回る結果となった。
 原単位当たり排出量は僅かに前年度より低い数値となった。
 今年度は前年度より再総エネルギー量に占める廃棄物燃料の割合を増やす事が出来た。
 結果として、エネルギー起源CO₂の排出量は今年度53,750ton、前年度60,610tonとなり、前年度より大幅に削減する事が出来た。

【推進体制】

改正省エネ法で選任されたエネルギー管理統括者及び企画推進者を中心とした体制で推進している。

【目標削減率達成のために実施した措置及び今後の取組】

工場等の名称	実施した措置及び今後の取組の内容
中山石灰工業株式会社 本社工場	(30年度実施分) 製品移送設備の能力低下により生産量を上げることができない設備がある。 輸送設備の修理を行い製品を輸送する能力を上げ、製品生産量を上げることにより原単位あたりの排出量を削減する。 (今後実施予定分) 廃棄物燃料の使用割合を増やし、エネルギー起源のCO2排出量を削減する。

【森林保全等吸収源対策への取組】

県内での取組	無	
その他	無	

【再生可能エネルギーの導入】

県内での取組	無	
その他	無	

【その他特記事項】

【目標削減率設定の基本的な考え方】
省エネ法(エネ定期報告)での年間のエネルギー使用量削減目標1%を基本とし、基準年より対前年比1%ずつ5か年間計画で5%減の目標とする。

【平成30年度の温室効果ガス排出量】
エネルギー起源CO2 : 53,750tonと非エネルギー起源CO2 : 143,715^tの合計量